

これでいいのか

日本の特別地域 特別編集 ④3  
たむらやすよ・宮沢玲奈 編

福岡県

KITAKYUSHU-SHI

# 北九州市



喧々譁々で誕生した  
九州初の政令指定都市



50年経ってもまともじゃない  
北九州の裏事情



義理人情に厚くさっぱり!  
無法松を地でいく人々



新日本三大夜景・血倉山は  
猪とヤンキーが闊歩する!?



ダークに染められた市民の不思議感覚





## 地域批評シリーズ編集方針

本書は、各地域の「街のイメージ」として貼られたレッテルを各種統計データと実地取材によって検証している。それらのレッテルを取り払った上で見えてくる、街の真実の姿を観ようとしている。街の真実の姿とは、集団としての住民のプロフィールだ。

街を作るのは、そこに住む人々である。だから、街を研究する行為はそのまま住民の研究に通じる。我々が、統計データを重視するのは、それがそこに住む住民が残した「数値化できる結果」であるからだ。我々が、現地を徹底的に歩き回り、話を聞き、資料を読み漁るのは、住民が作り出した「作品としての街」を鑑賞し、また「データ」や「レッテル」と比較することで、様々な側面からアプローチするためである。

結果として、劇画化されたような住民の姿を描く部分も出てくる。しかし、これらはすべて事実に基づく描写だ。これら露骨な描写には、既存の論調やイメージに対するアンチテーゼとして、また解決が難しい問題のあぶり出しに寄与する打撃力を期待している。

本書によって、これまで語られることの少なかった街の魅力を世に広め、住民すらも気づかなかった問題点の認識と是正の一助となれば、喜びに堪えない。

地域批評シリーズ編集部





## はじめに

1963（昭和38）年、2月10日に旧五市（門司・小倉・八幡・若松・戸畑）の合併によって誕生した北九州市は、2013年2月10日に市制50周年を迎えた。小倉駅周辺の商店街には「市制50周年」のロゴ入りフラッグが飾られ、北九州モノレールには記念ラッピング列車が登場。市内ではさまざまな記念事業や関連事業が行われるなど、記念すべき年を盛り上げようと市は熱心に活動が続けている。

しかし、そんな市側の思いとは裏腹に市民たちの反応は実にあっさりとしたもの。「50周年？ あ、そう」というつれない声がそこら中にこだまするほど、反応は悪い。その原因のひとつは、飲食店関係者が刺される、飲食店ビルが放火されるという凶悪な事件が相次ぎ多数の市民が深刻な被害を受けており、「今はそれどころじゃない！」というムードが漂っていること。確かに、すっかり人通りが少なくなってしまう夜の繁華街を目の当たりにすると、合併50周年を祝う気分も薄れてしまう。

そして、もうひとつは、北九州市全体の出来事<sup>※</sup>に、市民はあまり興味を持っていないこと。もともと個性の強い五市が合併したため、現在でも街の雰囲気は区ごとにバラバラ。合併から50年経った現在でも、ひとつの市<sup>※</sup>としてのまとまりに欠けるため、「50周年」と言われてもピンと来ないのだ。一体、北九州市<sup>※</sup>としての個性はどこにあるのだろうか？ よく言われる「怖い街」というダークなイメージが本当に北九州市の実像なのだろうか？

本書は、こうした北九州市と市民を徹底的に取材・分析し、真の姿を暴き出した一冊である。多少、強引な文書も度々登場するが、北九州市への新たな視点<sup>※</sup>だと思って、暖かく見守っていただけたら幸いである。

日本の特別地域 特別編集

これでいいのか 福岡県

# 北九州市

日本の特別地域  
オフィシャルサイト



公式ホームページは  
コチラより

<http://tokku.jp>







# 5市合併

## 九州初の百万都市誕生！ 華やかだった合併時代



5市合併後、しばらくは旧戸畑市役所を新市の庁舎として使用していたが、その後、新庁舎が小倉に誕生。旧小倉市は北九州市の中心地として発展する。新庁舎をどこに置くかはかなりもめたという

### 記念事業盛りだくさん 市内はお祭りムードに

1963（昭和38）年2月10日に、旧門司市・旧小倉市・旧八幡市・旧若松市・旧戸畑市の5市が対等合併して誕生した北九州市は、2013（平成25）年、ついに市制50周年を迎えた。当日は運良く日曜日となったこともあり、小倉北区の勝山公園大芝生広場で開催された「北九州市誕生祭」にはたくさんの人が訪れ大盛況となった。大勢の市民が参加した賞金総額50万円の北九州市ウルトラクイズや北九州出身のお笑い芸人・ロバートのライブをはじめ、祝い餅つきでついた餅やあたたかいみぞれ鍋がふるまわれたり、大好評だったB-1グランプリin北九州で受賞した八戸せんべい汁研究所、

対馬とんちゃん部隊、田川ホルモン喰楽歩などが再び集結するなど、50周年を祝うに相応しいイベントが次から次へと行われた。

市は50周年記念事業を市内全体で盛り上げるため、市民が自ら企画・実施するイベントに対し、1事業あたり上限百万円の事業経費を補助するという太っ腹な取り組みを行っていたが（もちろん、市の記念事業の理念やコンセプトに合ったものだけ）、そのためか2012年から北九州では本当にさまざまなイベントが行われてきた。しかし、それも2013年の3月まででほぼ終了。「ああ、50周年なのね」と、無関心だった市民がようやく認識してきたところでお祭りムードが終わってしまうのは残念だが、これからはもう次の50年のことを考えなければならぬ時。あまり長い間浮かれてばかり



もいられない、ということなのだろう。

北九州は他都市に比べ、区それぞれに全く異なる個性を持つバラエティに富んだ豊かな都市だといえる。だが、区と区の交流が浅くバラバラでまとまりがない……と言われればまさにその通り。多くの市民が自分の住んでいる区（または働いている区）以外のことはよく知らず、時には張り合っているのが特徴だ。市の誕生から50周年を迎えたのはめでたいが、それは逆に「ひとつになっても50年も経つのにまだ上手くまとまることのできないでいる」というふがいなさを示してしまっている。

だが、市民がひとつになるのに膨大な時間がかかるのも無理はない。それほど、互いに違う市として異なる文化を築いてきた5つの市がひとつになるといのは大変なことなのだ。

さらに50年が経ち百周年を迎える頃には、区と区の壁がすっかり取り払われ一丸となった市民の姿を見ることができるようだろうか。筆者が生きていれば検証してみよう。あまり想像はつかないが、気を長くして待っていれば、いつかはまとまる日がやって来るかもしれない。

## 長い議論が続いた 合併までの道のり

「5つの市が対等合併してひとつになる」。今から50年前、このニュースは日本中の話題となった。5市が対等合併するというのは世界でも初の試み。大変珍しいということで注目されていたらしい。さらに、新しく誕生した市の人口は約102万4000人。九州初の百万都市が誕生することになった。日本中がお祝いムードに沸いたのである。

実はこの地域の合併話は百年以上も前からさまざまな組み合わせで何度も議論されてきたらしい。ちなみに最も古い話は門司と下関の合併構想。個人的にはそれが一番おもしろかったのでは、と思うのだがご存じの通り実現しなかった。その後、本格的な合併話に発展していったのは昭和に入ってからだという。

最初に大きな合併問題が議論されたのは、1934（昭和9）年。この時は小倉と若松だけが賛成し、他はあまり乗り気ではなかったらしい。特に合併すれば市の端っことなり、あきらかに中心地から外れてしまう門司はとてそんな気が



北九州市の玄関口として常に多くの人で賑わう小倉駅。JR九州が発表した駅別乗車人員（平成23年度）によると、利用者数は博多駅に次いで第2位。1日に平均3万5708人が利用する





市制 25 周年を機に「市民の心をひとつに合わせ多くの人が楽しめるまつり」として始まった「わっしょい百万夏まつり」。毎年 150 万人を超える人が訪れ、前が見えないほど混雑する

になれなかったのだろう。「合併すれば衰退する」と考え、この後もずっと反対を貫いていたようだ。2 回目に議論されたのは 1943（昭和 18）年。今度は小倉と若松に加え、八幡も賛成側に。戸畑は相変わらず乗り気ではなく、昔から関門海峡の方ばかりを見ている門司は、この頃から「下関も仲間に入れるんだったらいいよ」という姿勢を見せ出したとか。

そして 3 回目は 1947（昭和 22）年。この時には「5 市合併研究委員会」の発足が決まるなど、具体的に話が進んだという。だが、住民投票で合併の賛否を調査しようとなったにもかかわらず、実際に投票を行ったのは小倉と八幡だけだったりと、5 市の足並みは揃わず実現には至らなかった。

ようやく話がまとまったのが 4 回目となる 1960（昭和 35）年。国勢調査の結果、5 市の合計人口があと少しで百万人になることを知った市民たちから百万都市を目指す声が挙がり、合併を後押しする形になったという。門司区役所まちづくり推進課が作成した「門司の歴史」には、その年に開かれた 5 市の市長会での発言が掲載されている。ここに一部を抜粋して掲載しよう。

**八幡市長**「どうでしょう。今日ここにお集まりのみなさん。わたしどもが市長である期間中に百万都市を生み出そうじゃありませんか。市長としての任期はあと 3 年。その 3 年のうちに、5 市合併を実現しましょうや。いかがでしょう」。

**小倉市長**「小倉の場合は、私の前々の市長から一貫して賛成しています。明治から続いているこの問題は、いずれ解決せねばなりませんね。門司の意向はどんなものでしょうか。」

**門司市長**「門司は、5 市がそろって近代都市として発展することを考えたときに、合併にそう強く反対とも言えません」。

**八幡市長**「それは、5 市合併でかまわないということでしょうか。」

**門司市長**「つまり、関門 6 市にこだわらないということです。市民もそうした方向で考えております。」

**戸畑市長**「戸畑は、おかげさまで財政は一番豊かです。ですから、市民の間には合併をしなくてもという意見もかなりあります。でも、長い目で見たときには、合併がよいと思いますね。」

**若松市長**「もう十分に議論はつくされていますね。戦前からのこの問題の解決は、今が潮時でしょう。」





### 北九州市50年のあゆみ

年	出来事
1963 (昭和38) 年	旧5市が対等合併。北九州市発足
1964 (昭和39) 年	オリンピック聖火が市内を通過
1965 (昭和40) 年	ばい煙規制法の全面適用を受ける
1969 (昭和44) 年	市内の電話料金を統一
1970 (昭和45) 年	北九州市公害防止条例公布
1971 (昭和46) 年	初の市文化財として曲里の松並木など7件を指定
1972 (昭和47) 年	新市庁舎開庁
1973 (昭和48) 年	関門橋開通
1974 (昭和49) 年	7区制スタート
1975 (昭和50) 年	新幹線小倉駅開業
1977 (昭和52) 年	西日本総合展示場開設
1979 (昭和54) 年	福岡市に人口を抜かれる
1980 (昭和55) 年	戸畑祇園大山笠が国の重要無形民俗文化財に
1981 (昭和56) 年	「北九州市民憲章」制定
1984 (昭和59) 年	九州自動車道門司IC～小倉東IC開通
1985 (昭和60) 年	北九州都市モノレール開業
1988 (昭和63) 年	第1回わっしょい百万夏まつり開催
1990 (平成2) 年	スペースワールドオープン
1991 (平成3) 年	市立医療センター（旧小倉病院）開設
1992 (平成4) 年	地球サミットで国連地方自治体表彰受賞
1993 (平成5) 年	かん・びん分別収集開始
1995 (平成7) 年	門司港レトログランドオープン
1997 (平成9) 年	国のエコタウン事業承認地域に決定
1998 (平成10) 年	一般ごみ指定袋制を開始
2000 (平成12) 年	北九州フィルム・コミッション設立
2001 (平成13) 年	ジャパンエキスポ「北九州博覧祭2001」開催
2002 (平成14) 年	到津の森公園開園
2003 (平成15) 年	北九州芸術劇場を開設
2006 (平成18) 年	新・北九州空港開港
2008 (平成20) 年	「環境モデル都市」に国が認定
2009 (平成21) 年	門司港レトロ観光列車「潮風号」運行開始
2010 (平成22) 年	アジア低炭素化センターを開設
2011 (平成23) 年	国から環境未来都市、国際戦略総合特区に選定
2012 (平成24) 年	B-1グランプリ in 北九州開催
2013 (平成25) 年	北九州市制50周年

※※各種資料より作成

合併の方法を煮詰める時期にきていると私は判断しますよ。」

それぞれの市長の発言を読むだけで、これまでの合併議論がどのように進んできたのが想像できる。最終的にはずっと反対してきた門司が賛成側にまわったことも、合併が一気に進んだ要因となったに違いない。

門司が合併に踏み込んだのは、1953（昭和28）年に起きた大水害で財政が厳しくなり、街がどんどん廃れていったから、という話もあるようだ。こうして合併は現実のモノとなる。

### 北九州市は本当は

#### 「西京市」だった!?

例えば福岡町と津屋崎町が合併して誕生した福津市のように、ふたつの市町村が合併した場合には、それぞれの名前を組み合わせて新しい名前をつける、といった簡単な名づけ方法があるが、5市の合併となるといろいろとめそうである。結局は全国公募で決めるという事になったという。その結果、応募総数約13万7100票のうち、約1万2100票を集めた1位に輝いたのは実は「北九州

市」ではなく「西京市」という名前。北九州市というネーミングは約6600票で2位だったというから知らない人は驚くだろう。その他には玄界市、洞海市、北九市、若戸市といった候補があったそう。

西京市というのは何とも風流で上品。「北九州」という言葉とはまるで響きが違う。1位と2位の間には随分と差があり、ほぼ決まっていたようだが、「京」という字が入った名前には「天皇がいらっしゃった歴史がないのに良いのだろうか」という意見もあり、北九州市に決まった。

すでに教科書に「北九州工業地帯」が載っていたことから、「PRしやすい」「覚えやすい」となったようだが、市民にはいまだに「北九州市なんて嫌だ。西京市が良かった」と言う人も多い。市外の人々からよく「北九」と略して呼ばれることを嫌う人も多く、人気の高い名前とは言えないだろう。50年も前のことなので、そろそろ諦める潮時だと思うが……。

次の百周年へ最初の課題は、「北九州」という名前にもっと市民が愛着を持つことなのかもしれない。まずはそこから始めてはどうだろう。





# 嫌福岡・親下関

## 案内するなら唐戸市場!?

## 市内扱いされる下関



### 下関はなわばり? 勘違いする市民たち

「市外から親戚や友人が遊びに来たらどこを案内する?」と尋ねられたら、北九州市民は何と答えるだろう。北九州の観光の定番・門司港レトロもいいだろうし、小倉庭園、松本清張記念館といった小倉城周辺エリアもある。季節によっては自然を満喫できる平尾台や獲れたてのたけのこが堪能できる合馬観光たけのこ園もいい。ところが、複数の北九州市民にこの質問をしたところ、想像とは異なる驚きの解答が続出した。「誰が来ても必ず連れて行くのは唐戸市場。おいしいもんがあるからね」、「そうそう、唐戸市場はお決まりのコースやね。何度行っても楽しいし。厳流島も結構喜ばれるっち

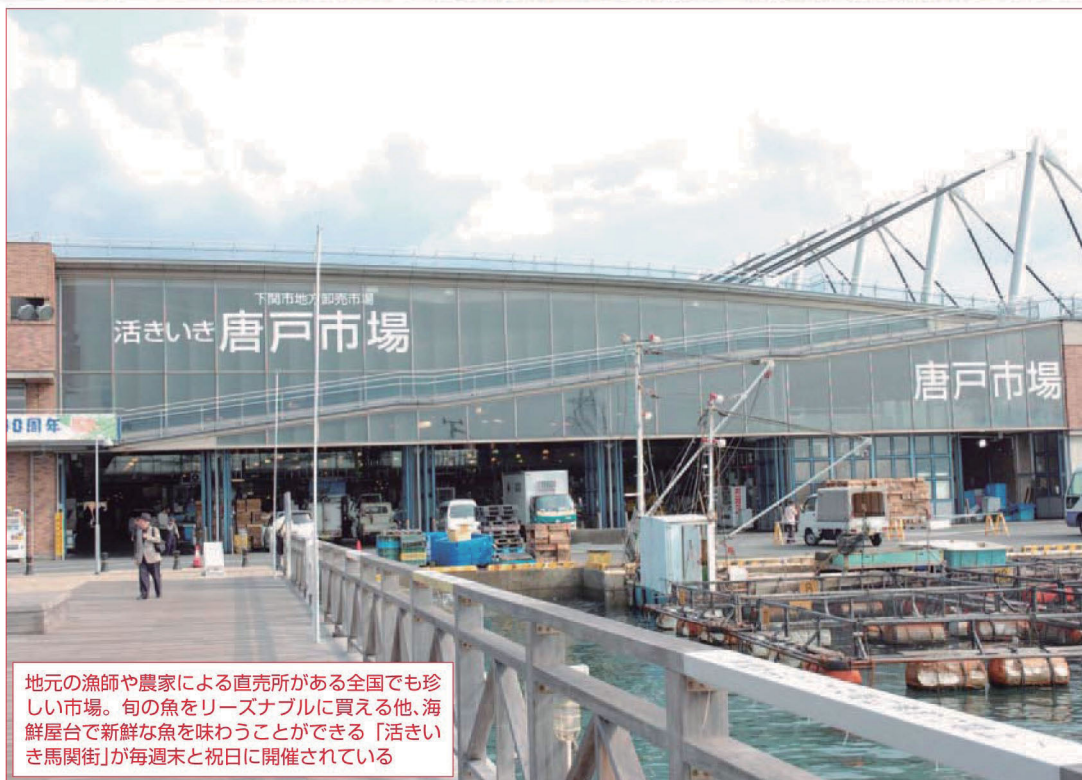
や」、「子どもがおったらやつぱり水族館やね。昔、遠足で行ったなあ」。

え、唐戸市場に厳流島……?

それは確か下関市だったはず。水族館なんて北九州にあったか?と考えていたら、それもやはり下関にある海響館のことだった。これは一体どういうことなのか。

引き続き彼らに話を聞いたところ、別に「北九州市には案内したくなるような魅力ある観光資源が全くない」と思っているわけではないという(実際のところどうであるかは別にして)。ただ、下関をうっかり市内だと思っていただけなのだ。まあ、それは言い過ぎかもしれないが、まるで自分の市のように親しみを持っているのは間違いない。そのため、下関も自分のなわばりだと勘違いし、得意気に案内してしまうのだ。喜ばれ





地元の漁師や農家による直売所がある全国でも珍しい市場。旬の魚をリーズナブルに買える他、海鮮屋台で新鮮な魚を味わうことができる「活いき馬関街」が毎週末と祝日に開催されている

ているのならそれで良いのかもしれないが、本州から九州にやって来た人をわざわざまた本州に連れて行く……というおかしなことになる。ケースもあり、「それってどうなん？」と首をかしげてしまう。

逆に、下関市民は北九州によく訪れているのかどうか気になり下関出身の知人に尋ねてみたところ、「子どものころから母親といっしょに小倉に買い物に行くのはごく日常的なことだった」という。また、学生時代に友だちと遊ぶのもほとんどが小倉の繁華街だったそう。そのため、北九州が他の市・他の県だという認識はあまりなかったらしい。確かに、下関には下関大丸や専門店街などが入ったシーモールぐらいしか買い物をする場所がなく、JRを使えばあつという間に行ける小倉が主な出かけスポットになるのも仕方ない。ちなみに、下関大丸というのは福岡の天神にもあるの大丸だが、下関人は一番頭の「だ」にアクセントをつけて呼ぶため、とても同じ大丸のこととは思えず、ずっと別物だと思っていた。方言は博多弁よりは近く似ている部分もあるのだが、「えらい（II 疲れた）」といった初め

て聞くと意味の分からないものや、「どこ行くほ？」といった感じで使われる「ほ」のように衝撃的なものもあり、これだけ交流があっても違うところは違うのか、と驚かされる。

## 県内他都市には

### イマイチ興味なし

さて、下関を自分たちの市の一部として扱うほど親しみを持っている北九州市民だが、実はその一方で福岡県内のその他の都市に対してはあまり親近感を持っていない。特に、言葉も文化もまるで違う筑後エリアについては同じ福岡県だという認識すら持っていない人が多く、「小郡って山口やろえ、福岡にもあるん?」、「柳川と八女って熊本だっけ。一度行ってみたいっちゃんね」などと平気で言ってしまう。実は筆者も初めて筑後の人と会った時に「大川から来た」と言われ、「ああ、佐賀から来たのか」と恥ずかしい間違いをしてしまった経験がある。初めて耳にした筑後弁がほとんど聞き取れなかったこともあり、同じ福岡県民だとはこれっぽっちも思わなかった。今思うと筑後の人にも佐賀の人にも失礼な話だ。





関門海峡の両岸から1万3千発の花火が打ち上げられる「関門海峡花火大会」。1985(昭和60)年に下関で始まり、1988(昭和63)年に門司側からも打ち上げられるようになった

では、その他のエリアについてはどうだろう。筑後と違って北九州から近い筑豊エリアに対しては、知識もありやや親しみを持っている人が多いような気がする(北九州同様「危険なエリア」と言われることが多いため、多少の仲間意識あり。しかし、ほとんどの北九州市民が「怖い街」と言われる度に「筑豊よりはまし」と思っている)。福岡市とその近隣都市に対しては、買い物やイベントなどで出かける機会が多いため、まるで住んでいるかのように詳しい人が多い。昼間に放送している地元の情報テレビ番組も、取り上げる内容は福岡のデパ地下スイーツや天神周辺のグルメに関する話題が多く、福岡まで買い物に行く暇がない主婦もやたらと福岡の最新事情に明るい。だとすれば当然、福岡に対しても下関と同じようにかなりの親しみを持っていても良さそうなのだが、これがなぜかちょっと様子が違う。

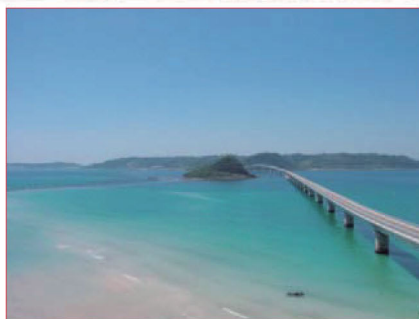
北九州で生まれ育ち、大学卒業後福岡市で就職したMさんは、同窓会の席で口から博多弁が出たとたん、「うわっ、コイツ博多弁とか使えようけ」と同級生一同から非難を浴びた経験が。「それ以来、北九州に帰ってきた時は博多弁を封印するよう気をつけている」と話す。また、遠方から訪れた客に「博多で食べた〇〇が美味しかった」と言われると腹が立つという小倉北区の活魚料理店女将・Fさんは、「博多なんか美味いもんがあるはずない」とライバル心をのぞかせた。さらに、妊娠中に仕事で福岡に行くことがあったというTさんは、「地下鉄では、お腹の大きな私に誰も席を譲ってくれなかった。義理人情に厚い北九州では考えられない話」と怒りをあらわにする。

こうした話から見えてくるのは、北九州市民が福岡をあまり良く思っていないという事実。逆に、福岡の人々も「怖い街」などと北九州に対してあまり良いイメージを抱いていないことが多いため、ふたつの都市の仲が深まることはなさそうだ。

## 行政面でもガッチリ 関門連携事業

福岡県内の他都市に背を向け、海を挟んで向かい合う下関と博多から見つめ合う北九州。もともと親交の深かったふたつの市が、ここまで仲良くなったのには理由がある。それが、「関門連携事業」だ。





下関市にある角島はドライブコースとしても人気。映画やドラマのロケ地にもなっている



下関市立しものせき水族館「海響館」。下関らしくふぐの仲間を常時100種類展示している



2012年、宮本武蔵と佐々木小次郎の「巖流島の決闘」が400周年を迎えた



下関駅のすぐ隣にある「シーモール下関」。平日は人も少なく、先行きを心配する声が多い

古い時代から関門海峡を有する仲間として共に成長してきた北九州と下関は、1987（昭和62）年から市長会が行われるようになり、より交流が活発になったという。そして、2007（平成19）年に行われた会談では、「市民交流・経済活動・教育文化活動・交通環境・行政間」という5つの連携「関門の5連携」に積極的に取り組むという宣言が出された。

まず、「市民交流」の連携事業としてよく知られているのが毎年8月13日に開催されている海峡花火大会だ。関門海峡をバックに北九州と下関の両岸から打ち上げられる花火は、どちらの市民にも大人気。普通の花火大会では見られない迫力と美しさがあり、お盆という時期もあって毎年会場は大混雑している。「経済活動」の連携事業としては、観光における連携が大きいだろう。例えば、下関にはあつて北九州には水族館がないのだが、それは客を取り合えないようにするためらしい。1997（平成9）年には、下関市・北九州市・山口県で構成される関門海峡観光推進協議会を設立し、共に観光宣伝事業・観光客誘致・周遊促進事業などを行っている。他にも、北九州空港の整備と利用促進、北九州空港利用促進協議会、北九州港と下関港が関門港として連携を進めていくために設立された関門港連携協議会なるものもあるようだ。また、「教育文化活動」

の連携事業として便利なのは、両市の居住者は双方の図書館で貸出利用ができるというもの。一見地味な事業だが、よく考えてみるとなかなかすごい。そして、「交通環境」の連携では、両市の往来がより便利になるよう関門海峡道路の早期整備や関門シティ電車構想の推進に向けた取り組みが行われている。

もちろん「行政間」の連携事業もかなり活発だ。きれいな関門海峡の景色を守っていくため、2001（平成13）年に関門景観条例を施行したが、景観について県域を越えた自治体が同一条文、同一名称の条例を制定するのは全国でも初めての試みだったという。他にも、両市の水道管を連結し、関門トンネルを経由して相互に水道水の融通が行われるように整備されているなど、緊急時に助け合う準備も万全。このように、北九州市民が一方的に親しみを持っているだけでなく、両市は行政面でもしっかりと手を握り合っているのである。

筑後のことは何も知らず、県庁所在地である福岡市にもあまり良い印象を抱いていない福岡県民のつまはじきもの・北九州。だったらいっそ、下関市といっしょに海を挟んだ珍しい「関門県」を築くことができれば……と考えてしまうのだがどうだろう。きっと、本来ある、本州と九州という概念まで覆ってしまうおもしろいことになるはずだ。



はじめに……1

北九州市MAP……2

# 50年経ってもまとまらない北九州の裏事情 ダークに染められた市民の不思議感覚……4

歴史 街道、貿易、製鉄…… かつて日本の進化を支えた街……6

5市合併 九州初の百万都市誕生！ 華やかだった合併時代……10

嫌福岡・親下関 案内するなら唐戸市場!? 市内扱いされる下関……14

食文化 魚のおいしさはピカイチ グルメシティは博多じゃない……18

産業 有名企業も勢揃い ものづくりの街・北九州……22

環境 目指すは、世界の環境首都 追いつかない市民の気持ち……26

犯罪 怖い街で名を馳せるも 他人事で平和な市民たち……30

北九州市の基礎データ……38

## ●第1章 街の個性を築き上げたワケありな歴史……39

東と西の一体感のなさは歴史的に仕方ないのだ!……40

大内氏の時代のなごりか文化は九州よりも本州より……42

城下町から企業城下町へ長く続いた依存型の環境……44

源平合戦から第二次世界大戦まで 戦争との深い関わり……46





## ●第2章 プライドが高く市の中心を自負する小倉…53

義理人情に厚くさっぱり！ ♪無法松♪を地でいく人々……48  
「九州一標準語に近い街」その自信の根拠ってナニ？……50

コラム① 孝行息子・娘たちの学舎「北九州市立大学」……52

再開発が進む新幹線口は一体いつまで ♪裏口♪なのか……54  
太鼓の音色が騒音並みに!? 風情が減りつつある小倉祇園……56  
競輪からパンチパーマまでユニークな発祥モノ多数……58  
きれいなのに人影まばら 残念な感のある小倉城周辺……60  
そごう、伊勢丹でも無理…… 北九州に他の百貨店は不要!?……62  
モノレールまでありつつも減り続ける公共交通の利用者……64  
転勤族に支配される守恒・徳力エリア……66  
え、ここもまだ市内!? 緑あふれる南区の奥地……68

コラム② 北九州の台所（だった？）「旦過市場」……70

## ●第3章 関門海峡を見つめる北九州の独立国・門司…71

観光の目玉「門司港駅」が市制50周年に不在の事実……72  
市一番の観光地なのに課題山積みの門司港レトロ……74  
昔の面影はどこに 衰退する商店街の今……76





「結婚するなら下関がイイ！」いまだ他区に背を向ける門司区民……78  
 門司駅北口がおしゃれに变身！ 門司ウォーターフロント再開発……80  
 歴史のロマンを感じる平家ゆかりの地めぐり……82

コラム③ 門司港レトロ観光列車「潮風号」……84

## ● 第4章 不安な副都心を抱える北九州第二の街・八幡……85

休日でも昼間はシーン…… 副都心・黒崎は大丈夫なのか……86  
 合言葉は「ご安全に！」 〆鉄〆は北九州のステータス……88  
 原因は荒くれ者のDNA？ 市民が恐れるヤンチャエリア……90  
 猪とヤンキーにご用心！ 新日本三大夜景・皿倉山……92  
 青春の味はかしわめし 学生たちの街・折尾……94  
 あの人気女優も滞在 意外と 〆画〆になる北九州……96

コラム④ 八幡区民の心の祭り「起業祭」……98

## ● 第5章 狭くて目立たないけど昼間人口の多い戸畑……99

「オレらってカッコイイ〜！」 男たちが酔いしれる戸畑祇園……100  
 人口は一番少ないけれど…… 戸畑駅はなぜかいつも大賑わい……102  
 文教のまち・戸畑をつくった安川・松本親子……104  
 さみしい・暗い・個性なし 八幡の影に隠れる戸畑区……106





コラム⑤ 建築ファンに人気の「北九州市立美術館」……108

## ●第6章 注目度が地味にアップ 市発展の新舞台・若松……109

「島」と勘違いされる若松のビミョーな位置……110

地産地消が追い風に 若松野菜で市民にアピール……112

絵に描いたような幸せ家族が他区から集う北海岸エリア……114

日本一の石炭の積出港として栄えた時代の名残たち……116

認知度がなかなか上がらない北九州市エコタウン……118

コラム⑥ 市民の関心が薄い「北九州学術研究都市」……120

## ●第7章 50年後の北九州はひとつになれるのか……121

結局、バラバラのまま北九州は進んでいく!?……122

ダークなイメージを払拭 その鍵を握るのは……124

九州の未来を支えるのは北九州かもしれない……126

## ●街の気になるスポット……129

●参考文献……138







# 「九州一標準語に近い街」 その自信の根拠ってナニ？

よか・たい・ばい  
なんか使わんっちゃ!!

関東や関西の人は誤解していることが多いのだが、北九州市民は基本「よか・たい・ばい」などのいわゆる博多弁を使うことはない。福岡県、もしくは九州ということまでひとくくりにされがちなのだが、東京のタレントが北九州の口で市民相手に「お母さん、これうまかね〜」などと下手くそな博多弁を披露していると、「ああ、やらかしてるな」といついつい冷ややかな目で見てしまう。映画やドラマでの間違いが多いのも腹立たしい。北九州出身という設定の主人公が博多弁を使っていると、「ちゃんと方言指導つけろよ!」とイライラして仕方がない。博多弁は佐賀弁、長崎弁、熊本弁とは似てい

る部分もあるが、北九州弁とは全く異なる言葉なのだ。一般的に九州内で北九州弁の仲間と言われているのは、大分や宮崎の言葉だろう。

というように、同じ九州の中でも方言は大きくいくつかの種類に分けられるのだが、博多弁が属する肥後方言と呼ばれる分類には全国的にも目立つエリア(都市の規模が大きい・観光地として有名な意味)が多いこと、また、言葉としてのインパクトが強いことから九州を代表する方言となり、肥後方言Ⅱ九州弁という扱いになっているのだと思われる。

そのせいか、例えば北九州市民が東京で方言を使っているのも九州人だとはれることはほとんどない。よく言われるのは、「広島かと思った」、「山口っぽいよね」、「関西じゃないの?」など。神戸弁によ





## 主な北九州弁

北九州弁	使用例
～っちゃ	「も～、分かったっちゃ！」
～っち	「田中さん、今日来るっち？」
～やけ、～け	「今日飲み会やけ遅くなる」
はぶてる	「なんですぐはぶてるん」
くらす	「おまえ、くらすぞ！」
はわく	「玄関はわいとって」
かしわ	「お母さん、うどんにかしわ入れて」
なんしよん	「こんなとこでなんしよん？」
なおす	「このお皿なおしとって」
たわん	「こんな高いとこ、手がたわん」
なんち	「は？今、なんちゆった？」
やおない	「これ全部やるのはやおないわ」
ほたる	「脱いだ服、こんなところにほたるなよ」
なんかかる	「疲れたら壁になんかかっとき」
やろ	「どうせ誘っても来んのやろ？」
こまめる	「この千円、誰かこまめて」

※各種資料より作成

く似ているという指摘もあった。確かに、使う単語や語尾の変化が関西弁に似ているものが多く、ほんの少し会話を交わした程度であれば間違えられることもあるかもしれない。だが、アクセントは東京に近いと言われており、九州の中では一番標準語っぽいのではないだろうか（特に敬語だとほぼ標準語）。そのため関東や関西のメディアに博多弁や熊本弁とひとくくりになされてしまうと市民は、「私たちはあんなに訛ってない」「北九州弁はほぼ標準語。いっしょにしないでほしい」と憤慨するのである。

## 標準語に近いわりにユニークな北九州弁

確かに北九州弁は九州一標準語に近いと断言しても良いかもしれない。だが、確固たる自信を持つにはユニークな特徴があまりにも多いのではないだろうか。「ほぼ標準語」などと力強く言い切っている人に出会うと、実際に標準語を使っている人たちにブチ切られるのではないかとヒヤヒヤしてしまう。

ユニークな特徴としては、次のようなものが挙げられるだろう。

「ラムちゃん語」などと言われ、時期有名になった「～っちゃ」、市外の人から「やたら耳障り」とよく指摘される「～っち」の語尾をはじめ、「はぶてる」や「（片）付けるの意味の」なおす、「（掃くの意味の）はわく」、「届かないの意味の）たわん」といった市外ではあまり意味が通じない独自の言葉など。

こうして並べてみるとやはり標準語とは違うんだな……、と実感させられてしまう。あくまでも標準語に近いのはアクセントだけ、ということなのだろう。だが、それだけでも十分にすごい！ 何しろ北九州には「方言のせいでは何を言っているのか分からない」お年寄りが多いのだから。



北九州の銘菓「ぼんつく」の名前も、「間抜けだけと憎めない人」という意味の北九州弁らしい

## 市民なら一度は観よう！ 北九州弁が使われている映画

北九州出身の主人公が出てくる、または北九州が舞台という映画で忠実に北九州弁が再現されていると思わずうれしくなる。特に多くの市民から「カンペキ！」と高い評価を受けているのが、北九州市出身の青山真治監督による「サッドヴァケーション」だ。監督が元市民なので、「またどうせ博多弁を使ってるんじゃないか……」なんて余計な心配をせずに安心して鑑賞できるのがポイント。市民ならぜひチェックしてほしい。







# 再開発が進む新幹線口は 一体いつまで「裏口」なのか



## 小倉城口とは別世界 人のいない新幹線口

博多口と筑紫口のどちら側も栄えている博多駅とは違い（そもそも街の規模も性格も違うが……）、小倉駅は小倉城口と新幹線口とで残念ながら随分と様子が異なる。たくさんの人で賑わう小倉城口に比べると、人通りの少ない新幹線口はまるで別世界だ。特に2007（平成19）年にラフォーレ原宿小倉が開店してからは若者の往来がパツタリとなくなり、寂しさに拍車がかかってしまった。ラフォーレ原宿はかなりがんばった方だと思うが、それでも三方を海に囲まれたこのエリアで長く商売を続けるのは難しかったのだろう。閉鎖的な土地なので人の流れはつくらなければならない。がんばって呼

北九州市トビックス

何があるある？  
あるあるCity

ラフォーレ原宿小倉開店以来、人の気配がまるでなくなっていたあのビルが、2012（平成24）年4月、ついに「あるあるCity」としてよみがえった。目玉はオープンから少し遅れて開館した「北九州市漫画ミュージアム」。漫画文化の素晴らしさを全国に発信するためにつくられたという漫画ミュージアムは、地元出身の漫画家・松本零士氏を特集したコーナーをはじめ、さまざまなジャンルの漫画を楽しむ閲覧コーナーも充実。たった400円の入館料（中高生は200円、小学生は100円）で、午前11時～午後7時まで思う存分漫画を読むことができるというから、ネットカフェよりかなりお得だ。市外からわざわざ訪れる人もいろいろ、漫画好きの間では大きな話題になっているという。

あるあるCityは、漫





駅構内は賑やかだが、新幹線口方面に行くと次第に閑散として薄暗い印象に



設置された当初は珍しくはしゃいだが動く歩道に飽きたのか利用者は少ない

び込まない限り客は来てくれないのだ。小倉城口のような賑やかさを実現するためには、このエリア全体をよほど魅力的な場所にしなければならぬだろう。

## どんなにがんばっても裏口ムードはそのまま

2011（平成23）年3月12日の九州新幹線全線開通に合わせて名称が変更になる前は、現在の小倉城口は南口、新幹線口は北口と呼ばれていた。しかし、当時から新幹線口は「裏口」というイメージが強く、現在でもそう呼んでいる人が多いかもしれない。実際、ホームページなどで「小倉駅裏口から徒歩スグ！」と宣伝している

店もあり、「自ら裏なんてアピールしてどうする！」と思わず呆れてしまった。

しかし、北九州市は新幹線口の脱・裏口化を目指し、もう随分前からさまざまな努力を続けているのだ。そのおかげで、リーガロイヤルホテル小倉やA・Mアジア太平洋インポートマートといった大きな施設が並び、まるで空港のような動く歩道が設置されているという実に都会的な風景が広がっており、オフィスやビジネスホテルも多い。そのためビジネスマンはよく見かけるのだが、いかにも通勤中もしくは仕事中という人が歩いていても華やかさには欠けるもの。再開発の努力も虚しくやはり寂しさが漂っている。



総合病棟と心臓病センターからなる小倉記念病院。快適な入院生活が送れるという

## 何が新幹線口を救う？さらなる開発に期待

そんな新幹線口が、最近変わつつあるという。その要因のひとつは、小倉記念病院の移転。そしてもうひとつが、あるあるCityのオープンだ。「人は増えたけど、お年寄りとおタクばかり」なんて声も挙がっているが、誰もいないよりはいい。小倉記念病院は通いやすくなったと好評だし、あるあるCityも集客が期待されている。今後はギラヴァンツ北九州のホームスタジアム建設も予定されているというが、今のところ賛否両論。何が必要なのかじっくりと考える確かな再開発をお願いしたい。



中に入るとオタクたちの熱気やムンムン。独特の世界が広がっている

画だけでなく、アニメやゲーム、アイドルといったサブカルチャーの発信を目的とした商業施設。地下1階から地上7階までの各フロアには、キャラクターグッズやフィギュア、アニメのセル画などがずらりと並び、レアなアイテムには若者が群がっていた。かつてはラフォーレ原宿として小倉のおしゃれ自慢が集っていたこの場所が、今はチェックのシャツにリュックサック姿のおタクたちに占領されている……。何とも言えない気持ちにはなるが、どんな人種であろうと若者が集まるというだけではない。少しでも長持ちして新幹線口の救世主になってくれると良いのだが。





## 門司港周辺MAP



活気をなくした商店街

国の重要文化財に指定された駅舎を持ち、1995（平成7）年には門司港レトロがグランドオープン。門司港は、北九州の観光の顔とし、市民はもちろん市外にも広く知られた華やかな街だ。

門司港レトログランドオーブンの年には、関門海峡を望む観光地として昔から知られる和布刈地区とレトロ地区を合わせて年間約210万人の人が訪れ、さらにその数字はグングンと上昇。ピークの2003（平成15）年には、なんと約390万人を記録した。その後は下降傾向にあり観光地としての課題は多いものの、この不景気の中で相変わらずそこそこの人出で賑わっている。

しかし、その賑わいのすぐ側で深刻な事態が起こっていることを知っているだろうか。

普通、観光地として全国的に有名になり多くの人が訪れる街というのは、その全体が活気に溢れている。観光客というのは暇なのだろう、通常であれば誰も見向きもしないような店でさえ、人気の観光地にあるだけで人が溢れていたりするものだ。だが、門司港は少し様子が違う。レトロ口地区の華やかさとは裏腹に、国道3号線を渡ってすぐの裏舞台には、人通りが少ない寂れた商店街が鎮座しているのである。ところどころシャッターが降りた通りには、開店休業中の専門店が多数。一步入れば、崩れ落ちそうに古めかしいもうひとつの門司港レトロ口(ある意味こっちが本物!?)が広がり、そこには地元のおばあちゃんがポツンと





門司港のメイン商店街である「栄町銀天街」。立派なアーケードがあるが、少し薄暗いのが難点

## 商店街の復活に 観光客の力を！

戦前戦後、この辺り一帯は本当に賑やかな場所だったという。1931（昭和6）年に港の修築工

一人だけ歩いてきた……。たった数分で行き来できる距離にありながら、門司港レトロの中心エリアとのこの差は一体何なのだ。レトロに莫大な資金を使ってきた市はこの状況を改善しようと努力したのだろうか。商店街はレトロ人気に便乗して何か対策を打ち出しては来なかったのだろうか。「なぜこんな状況になっているのだろう」と考えれば考えるほど疑問が湧き出てしまう。



奥に入ると、小さな飲食店が並ぶ昭和的な風景が広がる。昔はかなり栄えていたに違いない

事が完成した後、国際港として広く知られるようになった門司港の街は、港町としてより栄えていった。その後、1958（昭和33）年には「関門国道トンネル」が開通し、それを記念して開催された「世界貿易産業大博覧会（門司トンネル博）」には、昭和天皇と皇后陛下もおおいでになったとか。その際に設置されたのが、栄町銀天街のアーケードだ。当時は門司港の中心商業地として街を大いに盛り上げていたが、現在はその面影はない。

門司港が有名な観光地でありながらなぜ商店街が寂れているのか。交通量の多い国道3号線を渡ってまで観光客が行くほどの魅力がない、というのが一番の理由なのだ



ヤミ市から発祥したという「小原市場」。人気のひもの屋「じじや」をはじめ、老舗の店が揃う

ろう。だが、もうひとつ気になる要素がある。それは、北九州の観光の目玉でありながら、門司港には宿泊客が少ないという点だ。先ほどピーク時には年間約390万人が訪れていたこともある、と紹介したが、そのほとんどが実は日帰り客。宿泊した観光客は1割程度であり、その割合はオープン当初からほぼ変わっていない。宿泊施設が少ないというのもあるが、門司港とその周辺には泊まりがけで楽しむほどの魅力がないということなのだろう。

長時間滞在する人がいなければ、もちろん街中をのんびり散策する人もいないし、夕食を食べたりお酒を飲みに出掛ける人もいない。宿泊客の少なさが門司港レトロと商店街を上手く連携させることができないひとつの要素になっているのだろう。

「商店街は地元のもの。観光客に頼るものではない」という意見もあるかもしれない。だが、それは大型スーパーや商業施設がなかったひと昔前の話だ。鳥取県境港市にある水木しげるロード周辺の商店街やキャナルシティ博多の經由ルートとして賑わいを取り戻した福岡市の川端商店街のように、観光客を上手く取り込むことが商店街の活性化につながることに間違いない。門司港も動線を工夫するなどの取り組みで、人の流れを広げることができないだろうか。門司港は実に課題の多い街になってしまったものだ。



小原市場同様、戦後のヤミ市から始まったという「中央市場」。当時から続く店もあるとか



## 参考文献

- ・北九州市花咲きかるた  
〔北九州市市勢要覧2012〕 北九州市
- ・北九州市観光ガイドブック「もりたび」  
(社) 北九州市観光協会
- ・北九州市制だより (2012・7・15)
- ・北九州市制だより (2012・8・1)
- ・北九州市制だより (2012・9・1)
- ・北九州市制だより (2012・9・15)
- ・北九州市制だより (2013・1・1)
- ・関門運搬事業の「あんない」  
関門地域行政連絡会議
- ・長崎街道小倉城下町の会  
「城下町小倉」編集委員会
- ・長崎街道小倉城下町の会 2006年
- ・遠藤薫  
『長崎街道 大里・小倉と筑前六宿』  
図書出版のぶ工房 2000年
- ・北九州市ふるさとかるた
- ・北九州市にぎわいつくり懇話会
- ・北九州に強くなるうしシリーズNo.8  
頑固でダンディよみがえれ太正ロマン  
門司港レトロ 西日本シティ銀行
- ・北九州に強くなるうしシリーズNo.12  
「回想」五市合併2000年を迎えて  
西日本シティ銀行
- ・門司の歴史 門司区役所まちづくり推進課
- ・北九州市「環境未来都市」宣言  
〔週刊ダイヤモンド〕2012年2月18日号から抜粋  
北九州市広報室報道課

- ・「安川・松本家と戸畑の百年」 戸畑区役所
- ・「若松潮風キャベツ」 J A北九若松そさい部会
- ・「地元を食べよう北九州」  
地産地消ガイドブック
- ・北九州市産業経済局農林水産部地産地消推進課
- ・北九州のブローアンス(南仏)
- ・北九州市若松区役所まちづくり推進課
- ・門司港レトロ 焼きカレーMAP  
門司港クルメ会
- ・「かわら版 旦過市場ガイド」
- ・高橋伸一  
『炭鉱労働者の履歴と広域移動』 1990・3  
佛教大学社会学研究所紀要 第11号
- ・崔麗華  
『高度経済成長期以降の  
日本鉄鋼業の展開と立地変動』 お茶の水地理学会
- ・[サイト]  
・北九州市  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/>
- ・小倉北区  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kokurakita/>
- ・小倉南区  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kokuraminami/>
- ・門司区  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/moji/>
- ・八幡東区  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/yahatahigashi/>
- ・八幡西区  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/yahatanishi/>
- ・戸畑区  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/tobata/>

- ・若松区  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/wakamatsu/>
- ・下関市  
<http://www.city.shimonoseki.lg.jp/>
- ・ちゅうそ北九州  
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/yokoso/>
- ・北九州市制50周年記念事業  
<http://www.kitakyushu50th.jp/>
- ・北九州モノレール  
<http://www.kitakyushu-monorail.co.jp/>
- ・北九州市環境エージアム  
<http://eco-museum.com/>
- ・北九州エコタウン  
<http://www.kitag-ecotown.com/>
- ・北九州市立美術館  
<http://www.kmma.jp/>
- ・北九州市環境修学旅行  
<http://www.kcta.or.jp/shugaku/>
- ・北九州商工会議所  
<http://www.kitakyushucci.or.jp/>
- ・北九州市産業観光  
[http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/kankou/study\\_tour/](http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/kankou/study_tour/)
- ・ウォータープレイス  
<http://www.waterplaza.jp/jp/>
- ・北九州市産業経済局企業立地支援課  
<http://kitakyu-kigyorichi.jp/>
- ・レインシティー北九州  
<http://lets-city.jp/>
- ・水環境館  
<http://www.mizukankyokan.jp/mizu/main.html>
- ・「魅力発信ー北九州」フェア  
<http://www.kitakyushu-fair.jp/about/>



- ・わっしょい百万夏まつり  
<http://www.wasshoi.info/>
- ・小倉祇園太鼓  
<http://www.kokuragiondaiko.jp/>
- ・戸畑祇園大山笠  
<http://tobatagion.jp/>
- ・八幡東なぶた振興会  
<http://www7.b.biglobe.ne.jp/~nebuta2008/>
- ・まぐい起業祭八幡2012  
<http://www.kigyosai.jp/2012/>
- ・小倉焼うどん研究所  
<http://www.kokurayakudon.com/>
- ・ローレン・ペン  
<http://b-1grandprix.com/>
- ・田中製麺所  
[http://members2.jcom.home.ne.jp/t\\_men/tobatakyanpon.html](http://members2.jcom.home.ne.jp/t_men/tobatakyanpon.html)
- ・八幡まちや協議会  
<http://www.miraijuku1999.com/yahatagyyouza/>
- ・北九州学術研究都市  
<http://www.kssp.or.jp/>
- ・北九州市立大学  
<http://www.kitakyu-u.ac.jp/>
- ・福岡県警察  
<http://www.police.pref.fukuoka.jp/>
- ・若戸大橋開通50周年記念特設サイト  
<http://www.wakato-50th.jp/>
- ・北九州市道路公社  
[http://www.kitakyu-road.or.jp/b\\_outline.php](http://www.kitakyu-road.or.jp/b_outline.php)
- ・門司港レトロインフォメーション  
<http://www.mojiko.info/>
- ・門司港レトロ倶楽部  
<http://www.reto-mojiko.jp/>

- ・門司港レトロ観光列車潮風号  
<http://www.reto-line.net/>
- ・門司赤煉瓦ブレイス  
<http://mojirenga.navitown.com/>
- ・門司港ハナナマ協会  
<http://mojikobananaman.com/>
- ・九州鉄道記念館  
<http://www.k-rnm.jp/>
- ・関門海峡 Navi  
<http://www.kanmon.gr.jp/index.html>
- ・小倉城  
<http://www.kid.ne.jp/kokurajou/html/index.html>
- ・日過市場  
<http://tangaichiba.jp/>
- ・スペースフールズ  
<http://www.spaceworld.co.jp/>
- ・合馬観光たけのこ園  
<http://www.ohma.jp/>
- ・平尾台自然の郷  
<http://www.hiraodai.jp/sato/>
- ・北九州市立小倉城庭園  
<http://www2.kid.ne.jp/teien/>
- ・松本清張記念館  
<http://www.kid.ne.jp/seicho/html/index.html>
- ・小倉けいりん  
<http://www.kokurakeirin.com/pc/index.html>
- ・JR九州（九州旅客鉄道株式会社）  
<http://www.jrkyushu.co.jp/>
- ・新日鉄住金株式会社  
<http://www.nssmc.com/>
- ・株式会社安川電機  
<http://www.yaskawa.co.jp/>
- ・OTTO 株式会社  
<http://www.toto.co.jp/>

- ・シャボン玉石けん株式会社  
<http://www.shabon.com/>
- ・つじい  
<http://www.tsujiri.co.jp/>
- ・井筒屋  
<http://www.izutsuya.co.jp/>
- ・小倉昭和館  
<http://www2.ocn.ne.jp/~showakan/>
- ・あそびの City  
<http://aruracity.com/>
- ・チャチャタウン小倉  
<http://www.chachatown.com/>
- ・上野ビル  
<http://ueno-building.com/>
- ・旧松本家住宅  
<http://www.nkc.or.jp/>
- ・九州工業大学  
<http://www.kyutech.ac.jp/>
- ・明治学園  
<http://www.meijigakuen.ed.jp/>
- ・東筑軒  
<http://www.tochikukuen.co.jp/>
- ・帆柱ケーブル株式会社  
<http://www.hobashira-cable.co.jp/>
- ・夜景倶楽部  
<http://yakei.jp/index.html>
- ・筑豊電気鉄道株式会社  
<http://www.chikutetsu.co.jp/>
- ・都市高速 福岡北九州高速道路公社  
<http://www.fk-tosikou.or.jp/>
- ・北九州空港  
<http://www.kitakyu-air.jp/>



● 編者

**たむらやすよ**

1976年、北九州市生まれ。祖父母が商売をしていた小倉北区の繁華街を庭として育った生粋の小倉っ子。大学卒業後は福岡市の雑誌編集部勤務するが、博多色満載の社風に馴染めず独立・開業。現在は編集者・ライターとして活動中。福岡で暮らす今でも、博多祇園山笠より小倉祇園太鼓をこよなく愛している。

**宮沢玲奈**

1978年、下関市生まれ。子どもの頃から北九州が遊び場だったため、山口県内の他の都市のことはよく知らないが、北九州の情報には敏感。大学卒業後は福岡市に渡り、現在はたむらと共に編集者・ライターとして活動中。福岡で暮らして10年以上が経つというのに、いまだに下関弁が抜けず博多弁が使えない。

**日本の特別地域 特別編集④**  
**これでいいのか 福岡県 北九州市**

2013年3月7日 第1版 第1刷発行

編 者 たむらやすよ

宮沢玲奈

発行人 武内静夫

発行所 株式会社マイクロマガジン社

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7 ヨドコビル  
TEL 03-3206-1641 FAX 03-3551-1208 (販売営業部)  
TEL 03-3551-9564 FAX 03-3551-9565 (編集部)  
<http://micromagazine.net/>

編 集 高田泰治

装 丁 板東典子

本文デザイン ㈱マイクロハウス 企画・制作

イラスト 田川秀樹

協 力 ㈱ n3o

校 閲 株式会社 文字工房燦光

印 刷 図書印刷株式会社

※定価はカバーに記載してあります

※落丁・乱丁本はご面倒ですが小社営業部宛にご送付ください。送料は小社負担にてお取替えいたします

※本書の無断転載は、著作権法上の例外を除き、禁じられています

※本書の内容は2013年2月4日現在の状況で制作したものです

©YASUYO TAMURA & RENA MIYAZAWA

2013 Printed in Japan ISBN 978-4-89637-415-5 C0095

©2013 MICRO MAGAZINE



# 住みよさナンバー1!?

## どこへ行くにもとにかく近い?

## そんな街にも“過密”と“過疎”という

## 問題が近年勃発中!!

ほど良く都会で、ほど良く田舎。暮らしやすく、地方都市の中ではバツグンの人気を誇り、2006年には『ニューズウィーク』で「世界で最もホットな10都市」に選ばれた実績もある。そんな輝かしき、わが街を福岡市民たちは「コンパクト」を標榜し、空港も、繁華街も、山も、海も、とにかくどこにでも近いことを自慢する。

ところが、そんな「コンパクト」にも問題点があった! 街の狭さには過密と過疎の両局面が存在しているのだ。本書は、ガイドブック等によくある、表面的な良いところを只々羅列した書籍ではない。市民から見た福岡の実態を事細かく分析した、真の福岡市の解説書なのである。



日本の特別地域 特別編集  
これでいいのか

福岡県 福岡市

たむらやすよ・前畑繁美・宮沢玲奈／編

B5判／144ページ／定価1,365円／ISBN 978-4-89637-363-9



◆地域批評シリーズ 特別編集 既刊一覧◆

**千葉市**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**千葉県 千葉市**  
佐藤圭亮・小森雅人・  
藤江幸次 / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-390-5

**群馬県**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**群馬県**  
岡島慎二・  
土屋幸仁 / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-392-9

**宮城県 仙台市**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**宮城県 仙台市**  
佐藤圭亮・丸山佑介・  
和田虫象 / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-394-3

**静岡市**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**静岡県 静岡市**  
松立学・  
佐藤晴彦 / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-397-4

**大田区**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**東京都 大田区** 第2弾  
昼間たかし・  
佐藤圭亮 / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-399-8

**新潟県**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**新潟県**  
岡島慎二・  
土屋幸仁 / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-401-8

**東京都 武蔵野市 三鷹市**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**東京都 武蔵野市 三鷹市**  
鈴木士郎 / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-404-9

**大阪府 大阪市**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**大阪府 大阪市**  
三宅敏行・山下敬三・  
橋村貴明 / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-406-3

**栃木県**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**栃木県**  
岡島慎二・  
土屋幸仁 / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-409-4

**岡山県**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**岡山県**  
昼間たかし / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-412-4

**福岡県 北九州市**  
日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**福岡県 北九州市**  
たむらやすよ・  
宮沢玲奈 / 編  
B5判 / 144ページ / 定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-406-3

日本の特別地域 特別編集  
これっていいのか  
**福島県**  
**現在制作中!!**



**地域批評  
シリーズが**

**電子ブックになって登場!!**

お手持ちのスマートフォンで、ご自宅のパソコンで  
電子書籍版「地域批評シリーズ」が今すぐに読める!!  
他にもマイクロマガジン社の  
魅力的なアイテムが目白押し。  
気になる人は今すぐチェックだ!!

地域批評 電子ブック 検索

▶▶<http://micromagazine.net/shop/>

【マイクロマガジン社】▶▶<http://micromagazine.net/>

**地域批評編集部の  
ブログも続々更新中。  
取材の秘ウラ話が  
テンコ盛り!**

取材のこぼれ話やスタッフの談話、  
◎エピソードなど、本書内では収録できなかった  
ウラ話が盛りだくさん!  
本書への感想や、ファンレターも  
こちらへご連絡ください!

▶▶<http://tokku.jp/>





# マイクロマガジン社の地域批評シリーズ

## ◆地域批評シリーズ 特別編集 既刊一覧◆



日本の特別地域 特別編集  
**東京都 杉並区**  
伊藤圭介・  
昼間たかし／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-290-8



日本の特別地域 特別編集  
**副都心線**  
地域批評シリーズ  
編集部／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-305-9



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**神奈川県 横浜市**  
小森雅人・  
川野輪真彦／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-312-7



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**東京都 足立区vs葛飾区vs江戸川区**  
地域批評シリーズ  
編集部／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-315-8



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**埼玉県 さいたま市**  
小森雅人・川野輪真彦・  
藤江孝次／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-329-5



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**神奈川県 川崎市**  
岡島慎二・  
浅井達幸／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-330-1



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**神奈川県 湘南エリア**  
橋本玉泉・  
岡島慎二／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-347-9



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**東京都 杉並区2**  
佐藤圭亮・  
伊藤圭介／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-350-9



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**神奈川県 横浜市2**  
小森雅人・川野輪真彦・  
藤江孝次／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-355-4



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**神奈川県 相模原市**  
佐藤圭亮・橋本玉泉・  
伊藤圭介／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-361-5



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**福岡県 福岡市**  
たむらやすよ・前畑繁美・  
宮沢玲奈／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-363-9



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**愛知県 名古屋市**  
澤村慎太郎・  
記者ネット名古屋／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-369-1



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**茨城県 茨城県**  
岡島慎二・  
松立学／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-358-5



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**千葉県 千葉市**  
小森雅人・藤江孝次・  
佐藤圭亮／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-372-1



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**北海道 札幌市**  
みたむらみっち・青木えり・  
上岡哲次／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-375-2



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**東京都 立川市**  
岡島慎二・  
伊藤圭介／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-379-0



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**広島県 広島市**  
川口有紀／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-385-1



日本の特別地域 特別編集  
これだけの  
**東京都 八王子市 & 多摩ニュータウン**  
岡島慎二・  
鈴木ユータ／編  
B5判／144ページ／定価1,365円  
ISBN 978-4-89637-388-2

【日本の特別地域オフィシャルサイト】▶ <http://tokku.jp/>



マイクロマガジン社の地域批評シリーズ

◆地域批評シリーズ 既刊一覧◆



日本の特別地域①

東京都足立区

『足立区にはヤンキーが多い』  
…って実際のところホントなの？

昼間たかし／編

A5判／176ページ／定価1,260円／ISBN 978-4-89637-253-3



日本の特別地域②

東京都葛飾区

『…ああ寅さんと両さんね』  
…ってそれ以外に何もいないかい！

昼間たかし／編

A5判／176ページ／定価1,260円／ISBN 978-4-89637-280-9



日本の特別地域③

東京都板橋区

…えーっと、  
『山手線ゲームで名前を出してもらえない区!!』

荒井禎雄・山木陽介／編

A5判／176ページ／定価1,260円／ISBN 978-4-89637-287-8



日本の特別地域④

東京都豊島区

サイタマ人の8割は  
『池袋菌』に感染しています。

橋本東堂／編

A5判／176ページ／定価1,260円／ISBN 978-4-89637-291-5



日本の特別地域⑤

東京都新宿区

えっ！人住んでるの？  
意外と多い新宿区ジュウニン。

昼間たかし・佐藤圭亮／編

A5判／176ページ／定価1,260円／ISBN 978-4-89637-299-1



日本の特別地域⑥

東京都渋谷区

不良VS補導員の仁義なき戦い!?  
只今、センター街は浄化中。

佐藤圭亮・丸茂潤吉／編

A5判／176ページ／定価1,260円／ISBN 978-4-89637-303-5



日本の特別地域⑦

東京都中野区

ヲタクの聖地!? イナカっぽいのに大都会!  
サブカルでピンボークさい!?

佐藤圭亮・川口有紀／編

A5判／176ページ／定価1,260円／ISBN 978-4-89637-313-4



日本の特別地域⑧

東京都江東区

時代を超えた対決!? 江戸・昭和・平成…  
混沌とする江東区の未来は!?

岡島慎二・渡月祐哉／編

A5判／176ページ／定価1,365円／ISBN 978-4-89637-317-2



日本の特別地域⑨

東京都大田区

ズレてますよ! 大田区さん!  
…いやいや、ズレてますって!

昼間たかし・伊藤圭介／編

A5判／176ページ／定価1,365円／ISBN 978-4-89637-322-6



日本の特別地域⑩

東京都台東区

えーっと…アメ横! 浅草!  
…って他にイメージないんか〜!!

小森雅人・川野輪真彦・藤江孝次／編

A5判／176ページ／定価1,365円／ISBN 978-4-89637-323-3



日本の特別地域⑪

東京都世田谷区

今度は西だ!  
一度は住んでみたい、あの区だけど…

岡島慎二・鈴木亮介・奥岡幹浩／編

A5判／176ページ／定価1,365円／ISBN 978-4-89637-327-1



日本の特別地域⑫

東京都足立区2

足立の時代がやってきた!  
デフレ時代の寵児足立区!!

昼間たかし・伊藤圭介／編

A5判／176ページ／定価1,365円／ISBN 978-4-89637-333-2



日本の特別地域⑬

東京都練馬区

大根! アニメ! 漫画!  
23区でいちばん新しい区!

岡島慎二・土屋幸仁／編

A5判／176ページ／定価1,365円／ISBN 978-4-89637-340-0



日本の特別地域⑭

千葉県東葛エリア

県民意識ゼロ!?  
「千葉都民」と呼ばれる彼らの実態とは!?

小森雅人・川野輪真彦・藤江孝次／編

A5判／176ページ／定価1,365円／ISBN 978-4-89637-342-4

地域批評オフィシャルサイト: <http://tokku.jp/>  
マイクロマガジン社: <http://micromagazine.net/>





小倉十三区



定価：本体1300円＋税

発売：株式会社 マイクロマガジン社

